



軒先茶屋 えむステ

誰もが気軽に立ち寄れる木工町の憩いの場

地域の人が自分たちで企画運営し、誰でもふらっと立ち寄れて、住民同士が交流できる場所。地域単位のふれあいサロンやカフェ活動が、芳川地区内でも数多く運営されています。木工町の片隅で、月1回開かれている「軒先茶屋えむステ」もそのひとつです。



令和8年9月1日 現在	
総世帯数	8,437世帯
総人口	17,225人
男	8,716人
女	8,509人

芳川地区
地域づくりセンター
☎58-2034

芳川出張所
☎58-2034

芳川公民館
☎58-2034

芳川福祉ひろば
☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、
芳川出張所、芳川公民館への
連絡は同じ番号となります。

芳川みなみ福祉ひろば
☎86-1055

と、地区生活支援員さんとの雑談でした。『義父の外出の機会が減っているのが気がかりだけど、デイサービスにはなかなか足が向かなくて』『高齢者のご家族からよく聞くお悩みなので、誰もが気軽に集まれる場所を我々も模索しています』『この会話がきっかけで、学生さんが定期的に集う離れの部屋でお茶会を開くことになりました。部屋の愛称には、『学びニ笑』という意味が込められており、そこに木工町のM(えむ)が加わり、民生委員さんの協力も得ながら、近隣に住まう高齢者に声をかけて、学生たちとの語らひの場が出来たのです。

3年間休むことなく続いているこの活動は、わずかな会費と持ち寄りで運営されている、手土産のお菓子や、民生委員さん手作りのお漬物などが並びます。話題は、おじいちゃん達の若い頃の経験談や、学生の研究や就活のこと、帰省時や旅先での出来事など、だれもが聞き役であり話し手で、世代や肩書を超えた繋がりが育まれています。実家でも学校でもない、第3のコミュニティで過ごした時間が、社会人になった今も大いに役立っている」と語る卒業生達。『皆さんでどうぞ！』と、各地から届く差し入れに眼を細めながら、会話が弾む日も増えています。

この8月の定例日はお盆と重なったため、学生と地域の企業人などが集う別イベントとの合同、納涼会スタイルで開催しました。



▲開始当時のチラシ



▲お茶菓子を囲んで会話も弾みます

皆笑顔で
楽しそう!



芳川子ども食堂開催

夏休み期間の子どもたちの居場所として、芳川公民館で子ども食堂を開催しました。

7月30日は「子ども縁日」を企画し、やまびこの森こども園の園児の皆さんが作成した提灯を部屋いっぱい飾り、縁日の定番の射的や型抜きだけでなく、昔遊び体験として昭和時代のメンコやベーゴマを用意し、大人にコツを聞きながら遊んでいました。

8月19日は「体育館遊び」様々なニュースポーツを体験してもらいましたが、一番盛り上がったのは綱引きでした。また、ボランティアによる桃太郎のお話をアレンジした認知症の劇も観劇し、認知症の特性と接し方が学べてよかったと好評でした。

お昼ご飯は定番のカレーライス。地域の方からたくさんのお米や野菜・お菓子のご寄付をいただきました。これからも芳川こども食堂へのご協力をお願いします。

次回は3月の春休みに開催予定です。



▲楽しいゲームがいっぱい



▲みんな大好きカレーライス



▲いらっしやい〜 縁日のばじまり〜



▲大盛り上がりの綱引き



各町会とも
独自に楽しく開催

夏のイベント



美芳町ハテナ会 子供夏まつり開催

8月9日夕方5時から、美芳町公民館広場で「美芳町子供夏まつり」が開催されました。このお祭りは美芳町の有志グループ「ハテナ会」主催で、今年で35回目となりました。

当日はかき氷、焼きそば、おでんなどが振舞われ、子どもたちのニコニコとした表情が印象的でした。

メインイベントはスイカ割りで、見事に割れた際には大歓声が広場に響き渡りました。その後のビンゴ大会や花火でも子どもたちは盛り上がり美芳町の楽しい夏を感じたひとときでした。



▲焼きそばの振舞いには行列が！



▲夏の定番スイカ割り



美芳町ハテナ会とは ▲美芳町ハテナ会メンバー40年ほど前、美芳町の同年代の仲間7人で発足。飲み会をきっかけに『横のつながりをもっと』という思いを願い続け、子供夏祭りの企画開催はじめ町内のカーブミラー磨きなどを行ってきた。現在は17人の有志グループ。

▶町内から感謝のお手紙もいただきました

小屋公民館寺子屋塾 ゼンタングル体験会



▲講師の塩原さん



▲塩原さんの作品



▲わかりやすい教材

8月30日、小屋公民館で寺子屋塾「ゼンタングル体験会」が開催され、ゼンタングル®認定講師の塩原美香さんの指導に11人が参加した。

「タングル」と呼ばれる独特のパターンを繰り返し描くゼンタングル。ノー・ミステイク（失敗はない）を基本に、参加者は約2時間思い思いに描き個性豊かな作品を完成させた。三原香織さんと楓奏さん親子は、「間違えてもいいところ良かった」「やってみたらすごく面白かった」と話していた。

小屋

平田

平田公民館では8月2日、「夏休みふれあい」が開催された。



▲大人気風船釣り

8月23日恒例の小屋町風神祭が、約20人の参列者を迎え、都波岐神社境内で執り行われました。



▲大人気風船釣り

来場者で賑わい、楽しんでもいました。



▲スリッパ飛ばし



▲スリッパ飛ばし

野溝

野溝でも恒例の夏祭り開催。暑さ対策で、公民館内でのイベントを多数用意。屋外のゲームとも大変人気で、大盛り上がりでした。



▲かき氷の振る舞い

令和8年度 おしらせ 芳川地区文化祭

11月7日(土)
13:00~16:00
作品展示、野菜などの販売

11月8日(日)
9:30~14:30
作品展示、野菜などの販売、ステージ発表

皆さま是非お越しください!!



たちばなし

私にとつて「よしかわ」と言えば何といつても「芳川小学校」のイメージが湧いてくる。私は昭和47年(1972年)3月に芳川小学校を卒業した。当時の校舎は線路と国道19号の間にあって、こげ茶色の木造校舎が一部残っていた。校舎と校舎の

間には確かメタセコイアと言う名の大きな木があった▼卒業年の昭和47年(1972年)という年は、2月に「札幌オリンピック」あさま山荘事件、5月に「沖縄返還」、9月に「日中国交正常化」があった年だ。その頃はやっていた歌には、「ハチのムサシは死んだのさ」とか、上條恒彦と六文銭の「出発(たびだち)」の歌などがあった。今から思えば、意味もわからずに口ずさんでいたのだが、意味合理が行き詰ってしまった昨今を思うと、意味がわからない方が本質に近づいていたのかなとも思う▼小学校の担任の先生でどうしても忘れられない先生は、上條昭先生だ。同じクラスの友人たちは今この芳川に何人くらいいるだろうか。正直、怖い怖い先生だった。いろいろな具体的に個々の場面が、いくつもあざやかに蘇ってくる。天岩戸神話の話や陸軍海軍の敬礼の違いの話など、なぜ今も忘れずにいるのだろうか▼私にとり「よしかわ」は「芳川小学校」なのだが、それはあやしい。カエルのような声を聞くことがなくなった。まさに「失われた時を求めて」の回想だ。

